

頼もしい若手たちに地域農業を



服部さん(左)と森井さん(右)

「農事組合法人下名生ファーム」は2015年1月に柴田町で最初に設立された農業法人で、今年で7年目を迎える。この農業法人で自分たちの未来を語りながら農作業をしている若手農業者と地域おこし協力隊の隊員がいる。

一人目は設立当初から従業員として働く服部勝さん(30)。服部さんは設立前の組合時代から就農しており、きっかけは当時の組合長からアルバイトしないかという一言だった。農業に対するイメージは年寄りがやるものだと思っていたので、興味も関心もなかった。しかし、作物や農機具に触れ合う時間が多くなるほど農業が好きになり、今では地域の農業者にも認められ、頼もしい存在になっている。

二人目は柴田町地域おこし協力隊の森井亮太さん(31)。森井さんは農業に憧れ東京から同町へ拠点を移した。町内鉢花農家など様々な農業形態を勉強し、楽しみながら1年目の農作業に奮闘している。また、農業の傍らインターネット販売を手掛けており、米と味噌の販売や生産者の紹介など同町の農業の魅力を配信する予定だ。

同法人の笠松良春代表理事は「若い人には本当に期待している。どんな時でも新しい発想で取り組んでもらいたい」と話す。